

## 第2回

# 公民館グランドデザイン検討委員会

「おいでん、いこまい、いってみりん」  
～公民館のあり方～

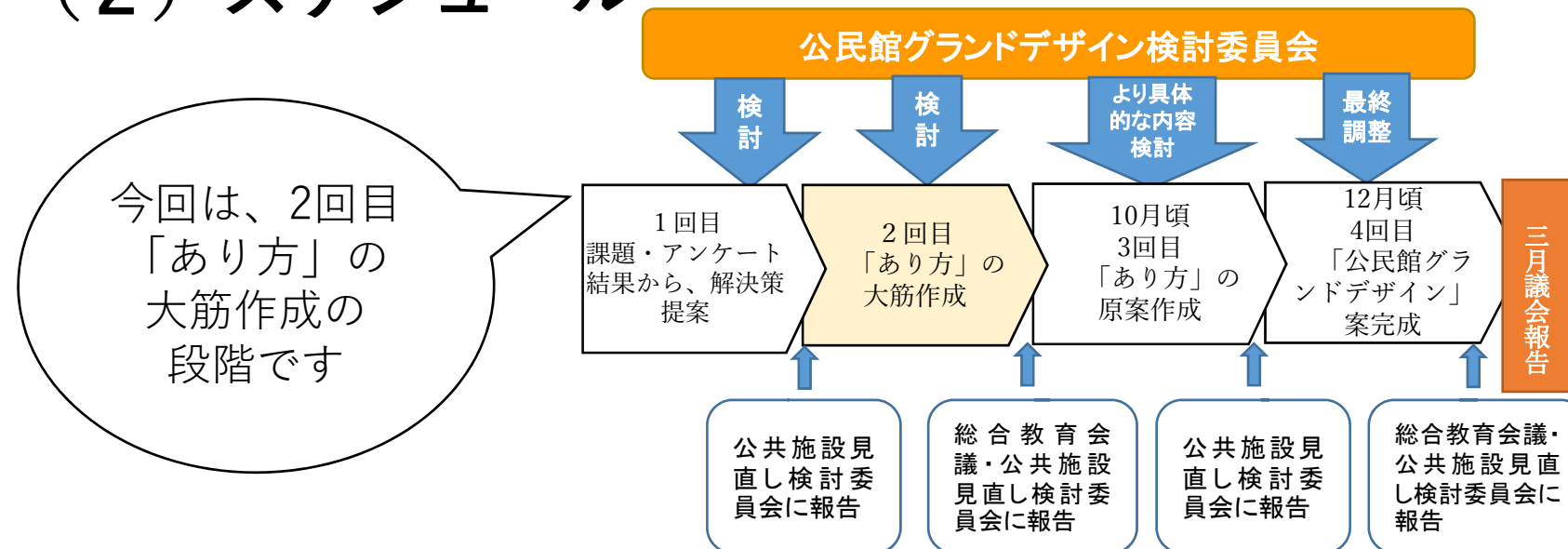


# 1. 前回までの振り返り

## (1) グランドデザイン策定の趣旨・目的

時代の流れや社会情勢の変化により、公民館に対する住民のニーズが変化する中で、多様な学習機会に対する期待や地域コミュニティの重要性、少子高齢者社会を見据えて、公民館のこれからのあり方を検討し、「公民館グランドデザイン」を策定する。

## (2) スケジュール



### (3) 第1回で説明したこと

#### 公民館の現状

- ・ 3施設を除き、施設が老朽化している。
- ・ 部屋の利用率が低迷している。
- ・ 各種講座の開講やクラブ・サークル活動は活発に行われている。
- ・ 公民館の職員は、市からの委託業務と、地区総代に関する業務を兼務しているため、今の職員の勤務体制では現状が精いっぱいである。

現在の公民館では主事の勤務時間が1日6時間・週3日と書記がプラスαという中で、クラブサークル活動の支援、公民館の営繕、地域の集会の場としての提供、講座の企画開講などを行うなどの運営を円滑に行っている。

#### 課題

- ・ 利用率の低迷、利用者が限定的
- ・ 何をしているところかの認識不足
- ・ 学びの地域差
- ・ 多種多様な講座の不足
- ・ 公民館業務と地域業務が混在

解決策として機能を分ける

#### 提案

交流館  
※現公民館

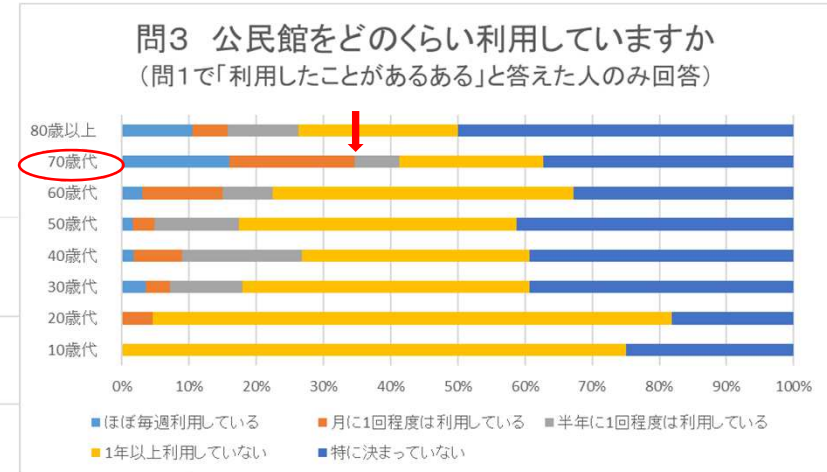
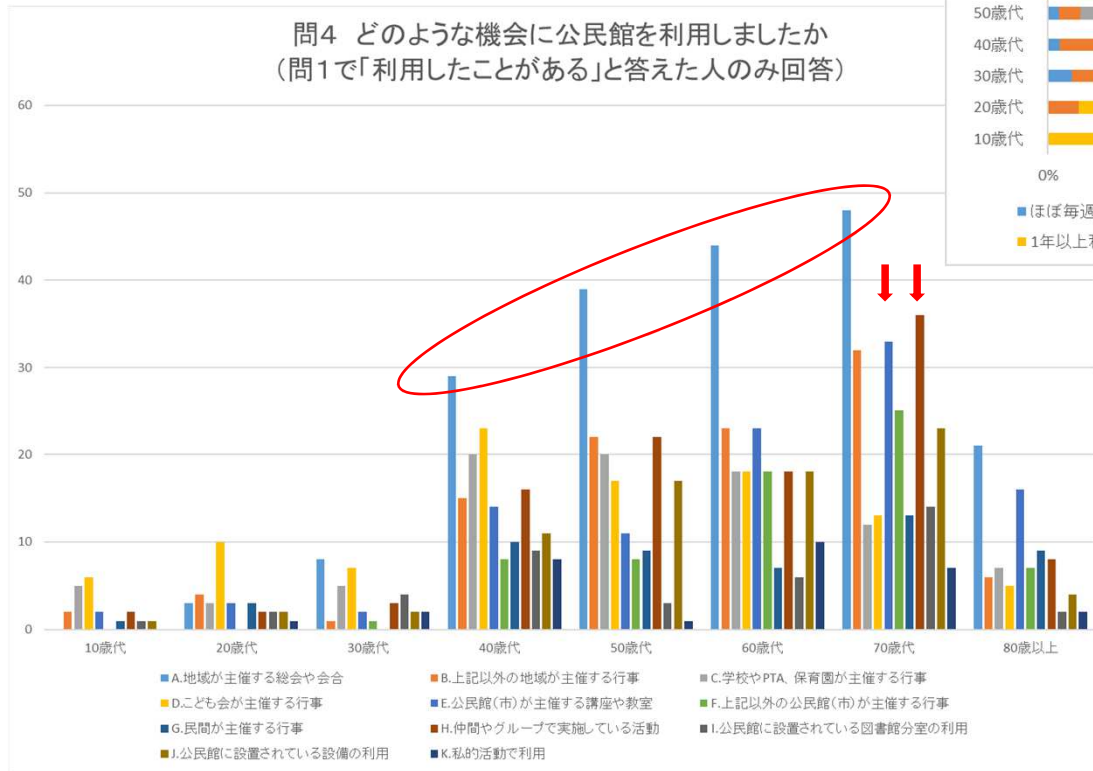
中央公民館  
※新設

## 2.なぜ、「交流館」と「中央公民館」なのか

### (1) 実績・アンケート

現状

全館	利用枠 (A)	利用実績 (合計) (B)	利用率 (B/A)
調理室全体	8,970	373	4.2%
全部屋平均	65,454	16,436	25.1%

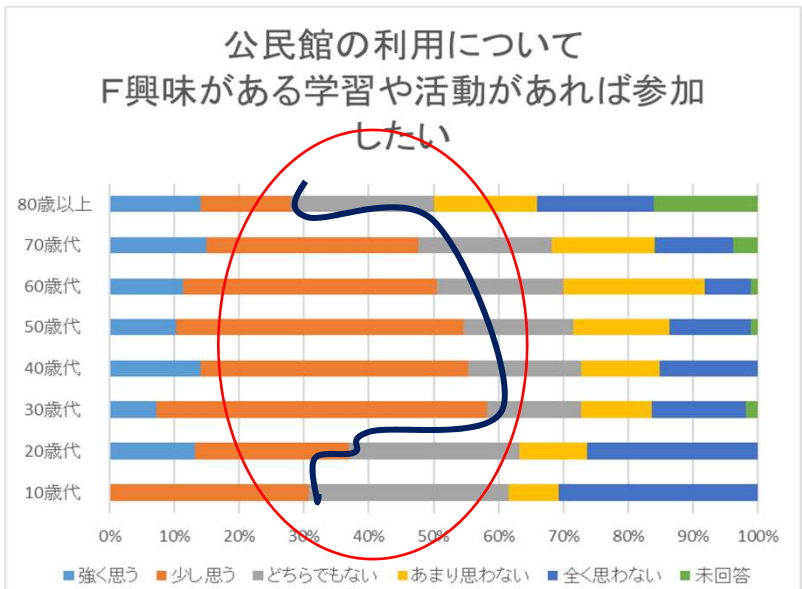
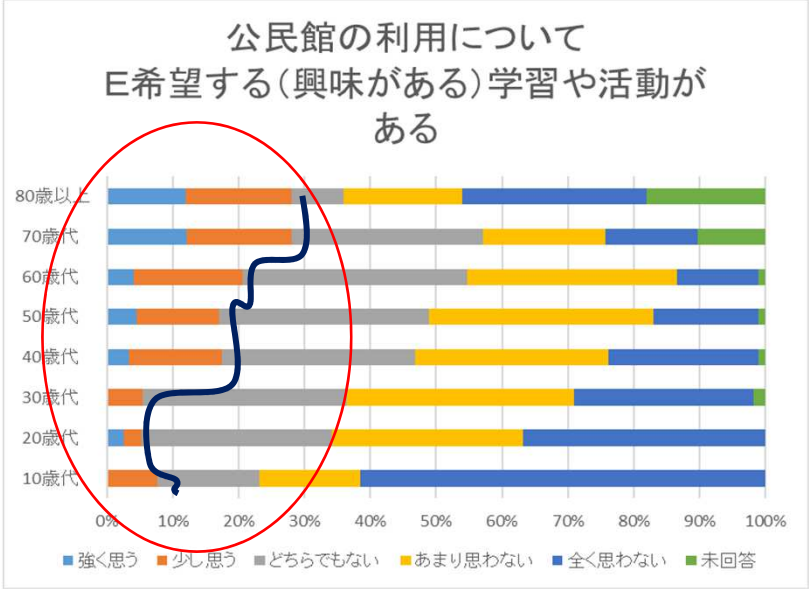
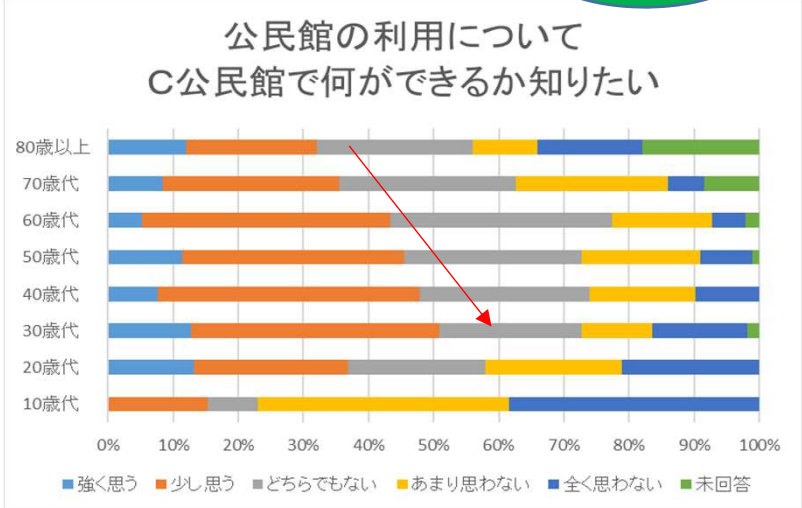
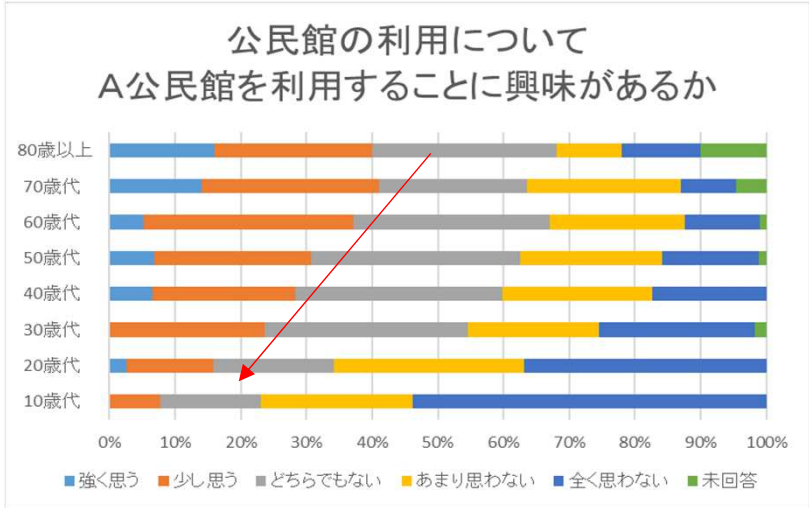


70代の利用が多い

学習より、地域利用が多い。70代は講座、サークル活動が活発。

今は興味がないが、内容によっては参加したい気持ちがある

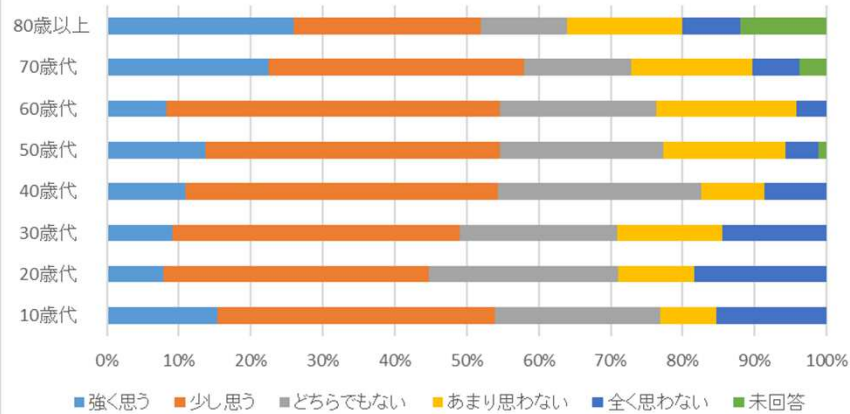
分析  
のびしろ



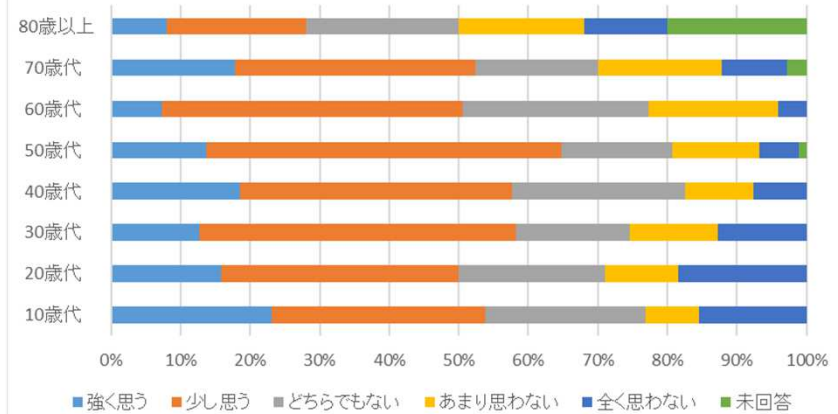
利用者拡大の可能性を秘めていることがわかる

活動への期待は大きく、多様性がある

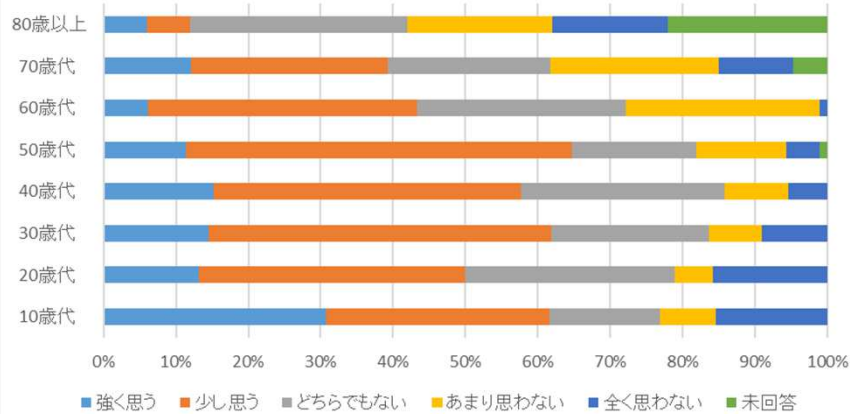
公民館の活動に期待することについて  
A健康の維持、増進に役立つ活動に参加したい



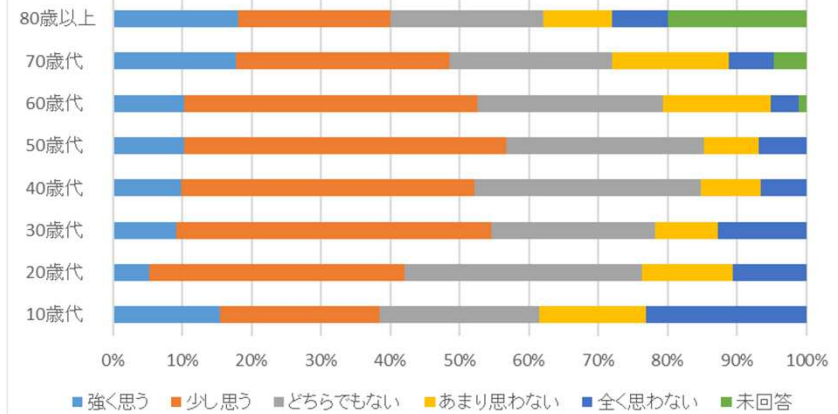
公民館の活動に期待することについて  
B趣味や特技を身に着ける活動に参加したい



公民館の活動に期待することについて  
C知識や資格の取得につながる学習に参加したい



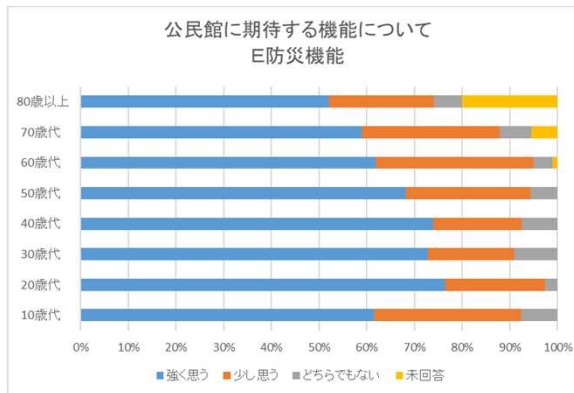
公民館の活動に期待することについて  
D人生をより豊かにできる活動に参加したい



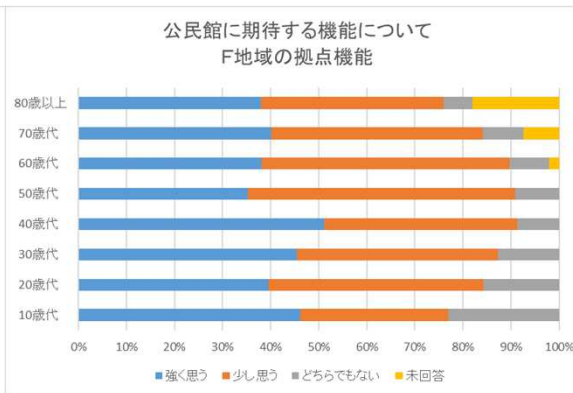
公民館に期待する機能 強く思う+少し思う ランキング

こちらの期待も大きく、  
多様性が求められている

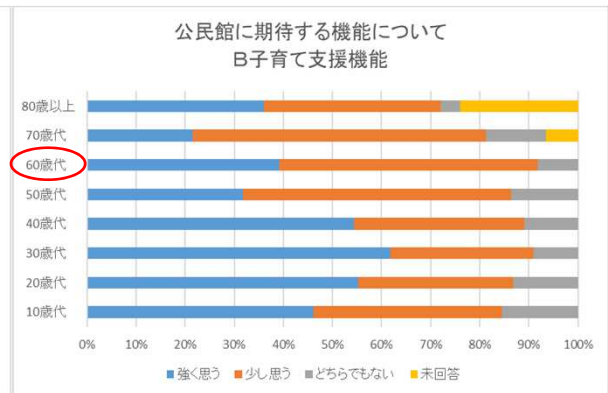
①



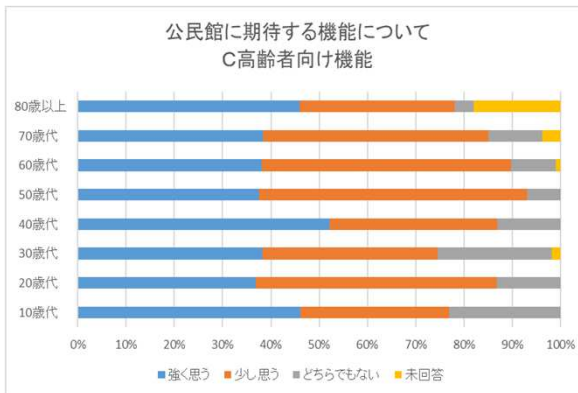
②



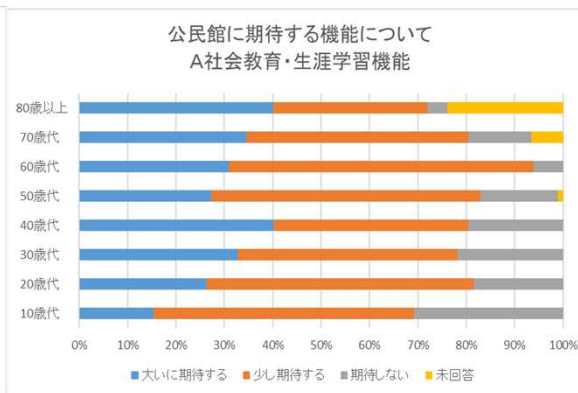
③



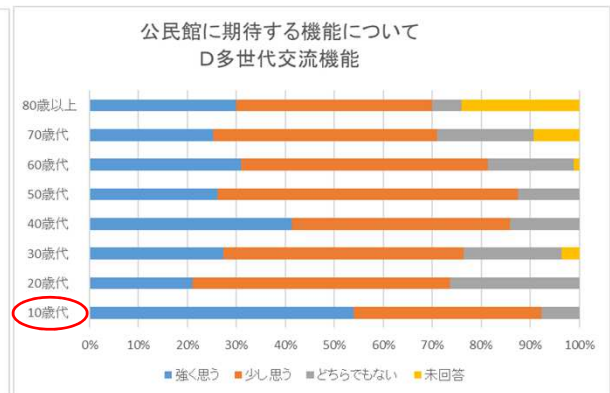
④



⑤



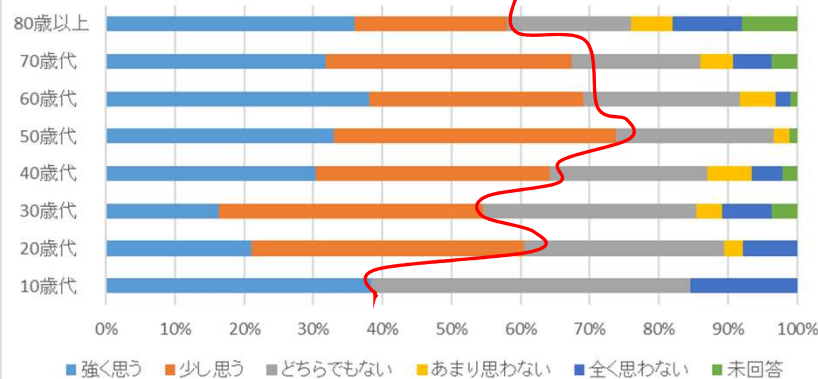
⑥



公民館の講座や機能に対して多様な期待があることがわかる

## アンケートからの声

### 公民館の利用について H公民館は地域の人が集まる施設になるべきだ



これからの公民館には小中学校と連携して地域と学校がもっと身近な関係を築いてほしい。資源回収や清掃活動だけでなく、得意分野の知識を持っている方に授業をしてもらったり、職場体験だけではできないような実際に仕事をしている人たちの話を子供たちに聞いてもらって進路の決定に役立てたりしてほしい。自分の所にも中学生がいますが、中三の時点で進路を決めるにあたり、実際の話をとくさん聞けた方がいいなと痛感しています。そんな時「地域にこんな人がいる」と紹介できるのが公民館の人ならわかるのかなと思います。

子供からお年寄りまで地域関係なく交流できるといいと思います。児童館のある地域ばかりではないので児童館の出張サービスなどあるといいと思います。(日曜日のイベントなど)保健師さんたちにも来てもらって健康相談や栄養相談など定期的に身近なところであると便利だと思います。

暗くて開館しているのか、閉館しているのかも分かっていなかった。明るくなったら利用しやすくなると思った。

友人同志で気軽にお茶をのみながら話し合える小部屋があるとよいと思う。コーヒーやお茶が買える自販機があるとよいと思う。

話し相手がほしい、話を聞いてくれる人が欲しいそういう子育て中の親子、子供、高齢者の方など多くいます。すべての人の居場所、温かく迎えてくれ心落ち着く場所が公民館であってくれたらいいな-!と願っています。

(竹島小みたいに) お金はかかりますが先を考えると避難することを考えると小学校を利用するのはいいことと思います。児童クラブ等大人(お年より)とのかかわりや交流もできます。



## (2) 課題の分析

### 原因・根拠

- ・利用率の低迷、利用者が限定的
- ・何をしているところかの認識不足
- ・学びの地域差の解消
- ・多種多様な講座の不足
- ・公民館業務と地域業務が混在

### 現状

- ・団体登録が必要なため誰でも自由に使える施設になっていない
- ・職員が不在の時間があり、事前予約が必要
- ・公民館職員業務が飽和状態
- ・地域によって講座の数や内容が異なる
- ・学区と総代区のずれが活動のしづらさにつながっている

### アンケートより

- ・高齢者の定期的な利用者が多い
- ・講座へのニーズはあるが、魅力的なものがない（知らない？）
- ・子育て支援、高齢者の居場所（生きがいづくり）への期待が大きいが、期待に応えられていない
- ・行ってもやることがない
- ・何をしている所かわからない



### (3) 解決策の考察

利用しやすい、行きやすい場所にするには？  
たくさんの人に利用してもらえるには？  
市民のニーズに応えるには？  
公民館を変化させるための職員負担をなくすには？  
地域の学習の差を解消するには？

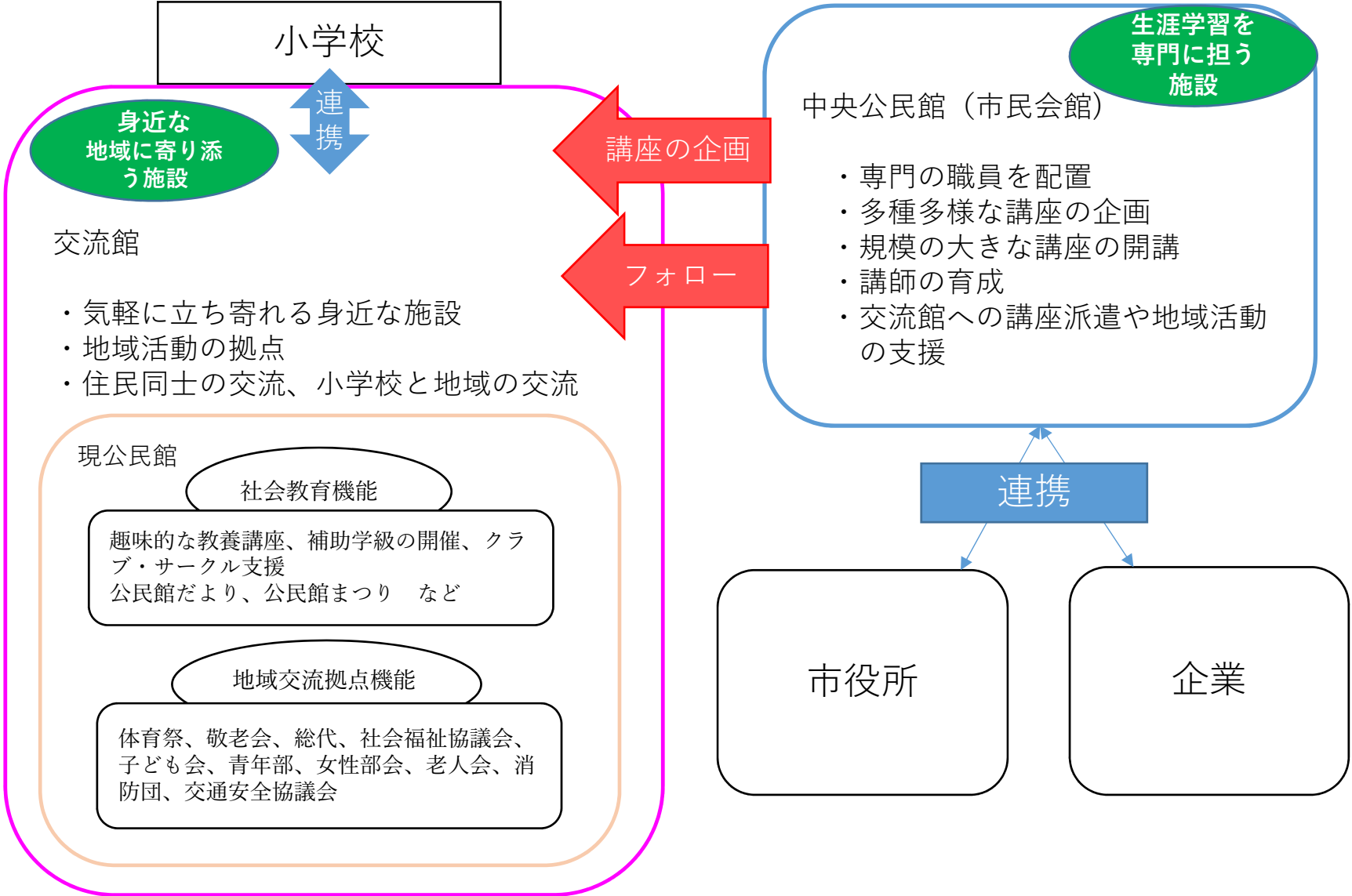
- ①多世代に公民館のことを知ってもらう
- ②公民館をもっと利用しやすく身近な施設に
- ③子育て支援・高齢者の生きがいづくりの場所に
- ④住民ニーズに合わせた講座の充実
- ⑤利用拡大に伴う公民館職員の業務量増化に対する軽減策

# 課題解決のための提案

## 交流館にできること・中央公民館にできること

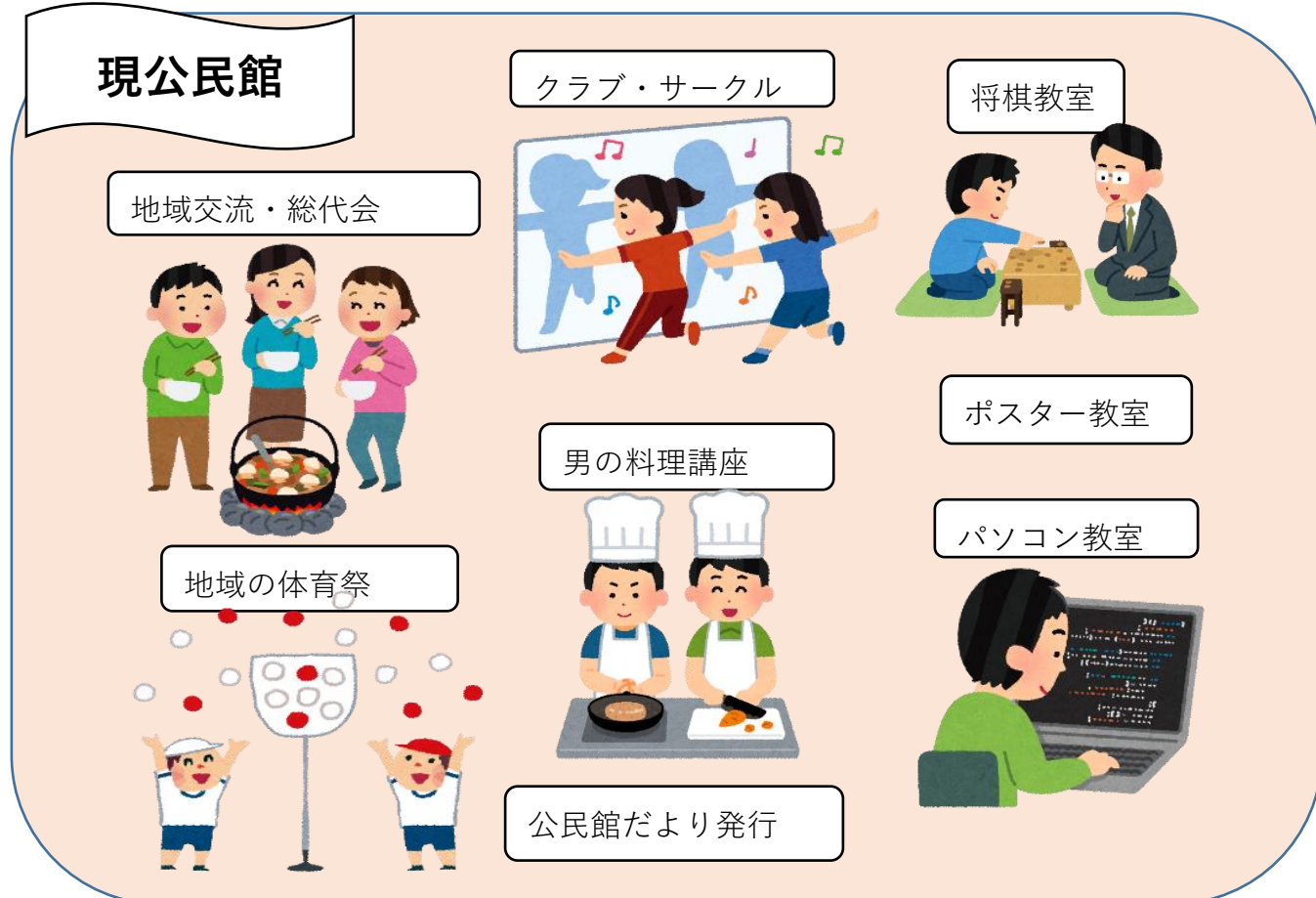
課題		解決策	
		交流館	中央公民館(市民会館内)
①	多世代に公民館のことを知ってもらう	<p>好きな時に立ち寄れるオープンな施設にする。利用しやすくなり、施設についてよく知ってもらう。</p> <p>小学校との複合。誰でも交流館に来れば自然と子どもと交流する機会ができる。</p> <p>小学校との複合。児童やその家族が、学校と同じように施設を利用し、身近に感じてもらおう。</p> <p>小学校との連携。住民が先生として学校や放課後に活躍できる仕組み。</p>	
②	公民館をもっと身近な施設に		
③	子育て支援・高齢者の生きがいづくりの場所に		
④	住民ニーズに合わせた講座の充実		<p>参加者多数の講座や、専門的分野の講座などを実施。</p>
⑤	利用拡大に伴う公民館職員の業務量増化に対する軽減	<p>地域と学校の連携の窓口となるコーディネーターを置く。</p>	<p>多種多様な講座の企画。市役所が実施する各課の講座・講師の情報の集約。講座情報発信の集中化。</p> <p>専門の職員（社会教育主事）を置き、各交流館の学習の手助けをする。</p>

# イメージ図



## 具体的なイメージ（現在）

現在の公民館では、クラブ・サークル活動や講座の企画などをはじめ、地域住民の交流事業などを行っており、地区の総代会と連携しながら地域住民の方の活動の場として利用されています。



### 住民ニーズに応えたい！

- ◇住民ニーズは多種多様。それに応えるべく、いろいろな講座を開催。
- ◇幅広い利用方法を可能に

### さらに！ 公民館活動により広がりをも！

- ◇クラブで磨いた技術を生かす
  - ◇地域のためになる講座を企画する
  - ◇多くの方に利用してもらい顔の見える関係を築く
- 個人のためだけではなく、地域のための活動も

公民館は、民間のカルチャーセンターなどが教えてくれない分野の学習を支援するべきところ  
です。たとえば、地域独自の困ったこと（ごみの捨て方が悪いなど）を、どう解決していく  
べきか、というテーマの講座を開催します。活発な地域交流により、地域住民のつながりが強固  
となり、やがてこういった活動ができることが理想です。

交流館と中央公民館で役割分担すると、こんなに活動が広がります！

